

浜田市議会議長

原田 義則 様

議員名

上野 茂



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 26 年 4 月 4 日 (金) ～ 4 月 6 日 (日)

### 2. 視察又は訪問先

三重県 松阪市【宣長まつり】宣長の鈴～新しい一歩～

久保田市長、三浦次長 (教育部)、観光交流課

観光ボランティアガイドの会、佐野神楽社中

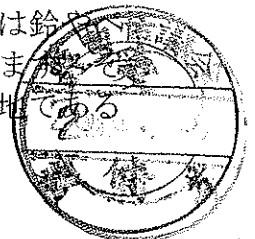
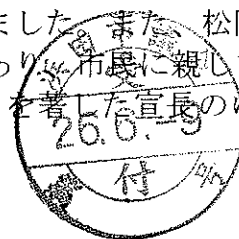
5 日 クラギ文化ホール (市民文化会館) 特産品販売応援と浜田市の PR、交流

6 日 市内、縁の歴史探訪と宣長まつり (松阪城跡) での市民交流

3. 調査経費 34,170 円

### 4. 視察に至った経緯と経過

浜田市と松阪市の交流は 3 年前 (2011) 秋、浜田市観光ボランティアガイドの会が古事記編纂 1300 年を迎えるにあたり、歴史探訪で三重県松阪市を訪ねた事によって、今まで誰も気付かなかった「縁」を見出した。その縁とは、初代浜田藩主の古田重治は国替えで伊勢の松坂 (三重県松阪市) より入封している。(1つ目の縁) また、12代藩主の松平康定は国学を好み、伊勢神宮参拝の途中、松坂を訪ねて国学者の本居宣長に講義を受けている。宣長は自宅の書斎を鈴屋と名付けるほどの鈴のコレクターで、それを知った康定は隠岐に伝わる駅鈴のレプリカを作成し、和歌を添えて贈っている。(2つ目の縁) 宣長の影響もあって当時の浜田藩は国学が隆盛。儒臣の小篠敏は宣長を師と仰ぎ、20人近い藩士らが門弟となった。その中には女性3人も名を連ねており、いかに当時の浜田藩に向学の気が漲っていたのかが分かる。現在も松阪市ではJR松阪駅前に、巨大な駅鈴のモニュメントを設置してシンボリックな存在となっている。台座が腐食し駅鈴を撤去するとの方向であったが、現在の山中松阪市長が浜田との縁を深く知ることにより、2013年春、補正予算数百万円をかけて石垣風の台座を新調されました。また、松阪市内には駅鈴のレプリカといったマンホールや造形物が数多く施されており、市長に親しまれています。また、縁の縁や発見があり、交流が始まり、「古事記伝」を著した宣長のゆかりの地である



松阪市から講師を招いて記念講演会（2012年6月）をした事で、浜田市民も初めて松阪市との深い縁を知ったところである。今年2月には、さらに親交を深め、新しい歴史を求めて松阪市では「友好の会」が設立されています。（斉藤ボランティアガイドの会長、牛尾博美議員、山崎ていじ観光大使が総会に参加）

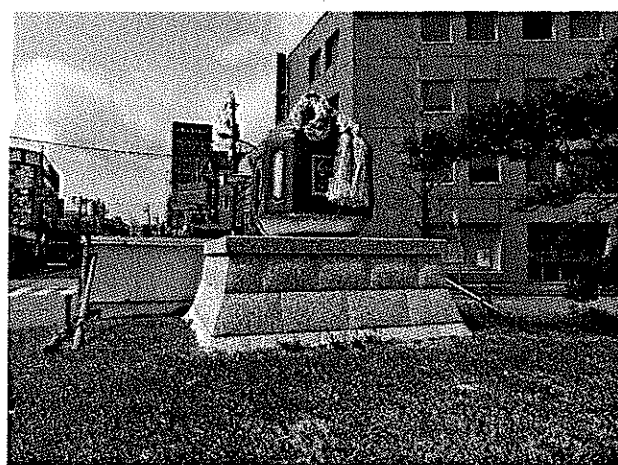
行政同市の交流は、両ボランティアの交流もあり2012年10月、前浜田宇津市長が松阪市を表敬訪問され、また、山中松阪市長も2013年8月、浜田市を表敬訪問された。郷土芸能である石見神楽、古事記に書かれた神話（石見神楽は本居宣長が研究した古事記に出てくる神話を取り入れている。3つ目の縁）の演目を【宣長まつり】で上演して欲しいと要請されたことによって、2013年4月、この度の2014年4月、久保田浜田市長も松阪市を表敬訪問され「両市の友好都市協定」を結べる様に検討していくことや、石見神楽を通じてまず市民同士が交流し、文化・産業・観光で交流できるように、両市長の決意表明の場でもあった。

\*佐野神楽社中はクラギ文化ホールで4演目（有明、見上山、恵比須、大蛇）

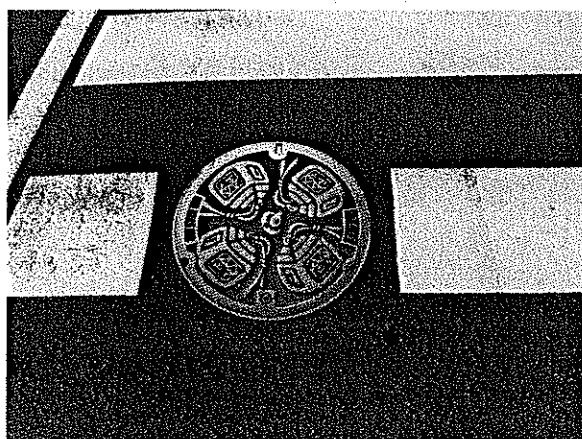
松阪城跡での舞台では2演目（塵輪、大蛇）を演じていただいた。



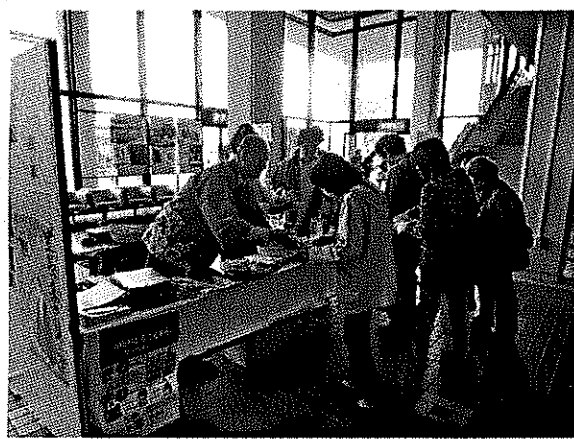
（松阪市駅前の駅鈴モニュメント）



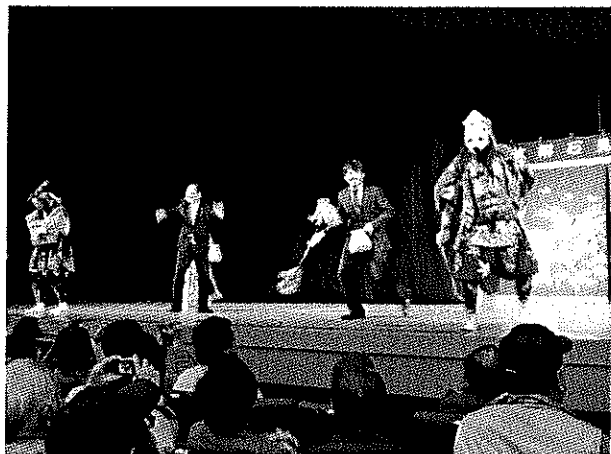
（新調された石垣風の台座）



（マンホールに駅鈴の模様）



（浜田市の特産品販売と観光情報PR）



(石見神楽上演にみなさん興奮しています)



(神楽観賞後、沢山の市民の皆様をお見送り)



(両市長より浜田からは神楽面、松阪からは駅鈴贈呈)



(駅鈴模様のマンホール、友好の会より贈呈される)

## 所感

2月に松阪市・浜田市友好の会が発足し、今回松阪市での「宣長まつり」に浜田市のPR議員として同僚議員4名で訪問しました。

国学者・本居宣長を顕彰する春恒例の祭り、初日には古事記に書かれた神話の物語、石見神楽を見るために市民文化会館にほぼ満席の1200人の市民が集まり、2日目は満開の桜が並ぶ松阪城跡周辺で「石見神楽」や松阪市民による踊りが披露され2500人（主催者発表）の市民で埋まりました。

浜田市の特産品の販売やパンフレットを渡す中で参加者から、浜田市を訪問して本場で神楽観賞や石見の魅力味わってみたいと言われる方も多くおられました。

先人たちの歴史や縁を訪ね、郷土芸能のPRや観光宣伝マンとなって、多くの松阪市民のみなさまと交流できたことは私にとって大きな成果でした。

中でも強く感じたのは、松阪市民は先人に学ぶことを大切にしておられること、松坂出身の商人三井高利や本居宣長などの副読本の充実、子供から大人向けまで漫画や絵本でわかりやすく作られ、書店や土産物店など至る所に並んでおりました。

「次世代を担う皆さんに郷土の誇りとするものを伝えたい」と宣長まつりにも多くの市民が参加され郷土を愛する心が寝ずにいる感じがしました。

浜田市でも数多くの活躍された先人がおられる。もっと教育に、まちづくりに生かすことはできないものか・・・今後の活動に生かしていきたいと思います。